
JASIS 2020 見聞録

(Japan Analytical & Scientific Instruments Show)

2020年は、1964年以来56年ぶりに日本で開催される東京2020オリンピック・パラリンピックのため、例年9月開催の分析機器・科学機器の展示会JASISが11月に開催されることになりました。11月11日(水)～13日(金)まで千葉県幕張メッセで開催されたJASISですが、2020年初頭から世界各国で流行している新型コロナウイルス感染症(Covid-19)により、感染拡大防止のため、日本でも数多くの展示会開催が中止、数多くの学会がオンライン開催に切り替えられる中、開催検討がなされ、結果、予定通りの日程で開催されました(図1)。

2日目(11月12日)の朝、取材のため事務局本部を訪れ、JASIS委員会委員長の杉田隆通様、技術委員会



図1 JASIS2020 展示会場の様子



図2 コロナ禍ならではのメッセージ

副委員長の岡村嘉之様、事務局長の若尾豪様からJASIS 2020の概要や特徴を伺いました。コロナ禍の中、果たして皆様に来て頂けるのか、事前に行ったアンケートの「展示会場では実際に話ができる」という声の多さも後押しとなり、今年のテーマは「リアルとバーチャルのハイブリッド」と掲げ、前代未聞の環境下での開催へと踏み切りました(図2)。

各ホールへの入場時にはマスク着用、検温と消毒をしなければ中に入れませんが、ブースによっては更に検温と消毒をしなければブース内に入れない感染対策が施されました(図3)。またいくつかのブースでは説明員はオンラインで対話をする形式をとる徹底ぶりです(図4)(図5)。

展示会場内では、2020年注目のキーワードのひとつとして、2020年4月1日より水道法の要検討項目から水質管理目標設定項目に引き上げられたPFOS、PFOAなどのPFAS分析用製品も見受けられました(図6)。

また、新技術説明会、オープンソリューションフォーラムおよび日本薬局方セミナーは、ソーシャルディスタンスを保つことが出来るよう整理券配布による入場制限が行われました(図7)。中でもメインのひとつとなる2日目の日本薬局方セミナーも18局改正が2021年4月に公示予定のため瞬く間に満席となりましたが、各席の間隔はソーシャルディスタンスを確保した配置となっ



図3 検温してからブースに入ります



図4 オンラインによる説明員との対話



図7 新技術説明会など整理券獲得のために並びます



図5 オンラインによる説明員との対話



図8 日本薬局方セミナー
日本薬局方の動向 18局発出に向けて
(2021年4月に公示予定)



図6 水質環境汚染として注目のPFAS分析

ていました(図8)。

直近3年間の3日間入場者数は毎年23000人超、出展社数は平均492社でしたが、コロナ禍の2020年は1日目2494人、2日目2412人、3日目2393人の計7299人(同一人物が何度出入りしても1カウント)、出展社数は276社に留まりました。それでもクラスター感染

が起こることなく無事に閉幕したことは、今後の展示会開催、学会開催への成功事例として、運営の参考となるに違いありません。

1年間の延期となった東京2020オリンピック・パラリンピックの関係で、2021年も9月ではなく2021年11月8日(月)~10日(水)に開催されます。月曜からの開催と異例ですが、東京2020オリンピック・パラリンピック延期が決定してからの会場探しに事務局の多大なご苦勞があったと伺いました。連続した3日間(設営準備、撤去日も入れると7日間)を確保できたのが、他の会場候補を含めてここ幕張メッセ(会場と日程の双方)しかなかったということでした。

最後になりましたが、取材にあたりまして貴重なお時間を割いてくださった委員会および事務局の皆様、運営に携われた皆様に、この場を借りて御礼を申し上げます。

オルガノ株式会社 高橋あかね
〔国立研究開発法人産業技術総合研究所 津越敬寿〕